NPS 外部コンポーネント

このモジュールでは、NPS を実行するために必要な、システムの外部にあるコンポーネントについて説明します。

- NPS の外部にあるコンポーネント，1 ページ
- NPS 外部インターフェイス，1 ページ

NPS の外部にあるコンポーネント

以下のエンティティが各種 NPS 内部コンポーネントと連携します。

- IT サービス管理（ITSM）：テナントとサービス プロバイダー間のインターフェイスを提供する、サービス管理用のサードパーティ ソフトウェア システム
- データセンター機能アドバタイザ：特定のデータセンターの集約された機能をアドバタイズする、データセンター側のコンポーネント
- パフォーマンス データ プロバイダー：ネットワーク ノード間のエンドツーエンドのネットワーク パフォーマンス測定データ（遅延、帯域幅、ジッター、コスト）と到達可能性情報を提供するエンティティ。 このようなエンティティの例としては、ルータが提供するパフォーマンス ルーティング（PfR）や IP SLA 機能などがあります。
- ルーティング ピア：ネットワーク プロキシミティの計算に使用されるルーティング情報の更新を提供する標準ルーティング プロトコル（IS-IS、OSPF、BGP）のピア
- プロビジョニング エージェント：ネットワークの実際のプロビジョニングを担当するエンティティ（たとえば、ASR1K 上の Cisco IOS XE や、CRS-1 ルータ上の Cisco IOS XR ソフトウェアなど）

NPS 外部インターフェイス

NPS は、システムが必要とする外部インターフェイスをいくつか備えています。 この文脈でのインターフェイスという用語は、API やプロトコルなどを指します。

- 機能アドバタイズメント API：DC 機能アドバタイザによって提供されます。 これにより、DC による機能アドバタイズメントのサブスクリプションが可能になります。 この API は XMPP とその PubSub 拡張によって実装されています。
- パフォーマンスデータ API：パフォーマンスデータ プロバイダー（たとえば、PfR や IP SLA など）によって提供されます。 この API により、エンド ポイント間のパフォーマンス関連データ（たとえば、到達可能性、遅延、帯域幅、ジッターなど）を取得できます。 実際の API は、利用されるパフォーマンス データ プロバイダーによって異なります。 これらの違いは、パフォーマンス マネージャ（PFM）に単一の API を提供するプラットフォーム パフォーマンス アダプタ（PFA）によって抽象化されます。
- 標準ルーティングプロトコル：ISIS、OSPF、および BGP プロトコルにより、プロキシミティエンジン（PXE）がプロキシミティ計算用のルーティングデータを取得するためのルーティング情報が提供されます。

各種コンポーネント間で機能するその他すべての NPS API はソフトウェアの内部にあります。

次の図は、NPS のコンポーネント間で機能する API を示します。
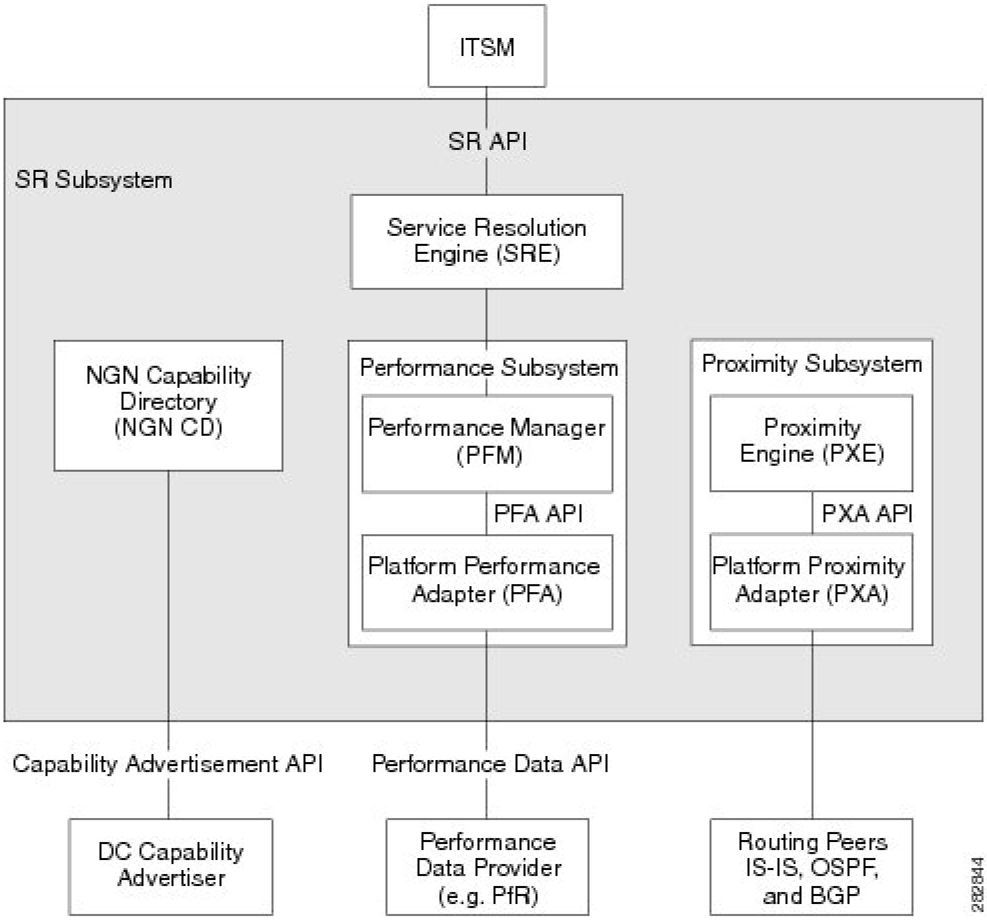
図 *1*：***NPS*** コンポーネント ***API***